

増負荷法とした。心筋虚血の判定は一過性欠損像の出現とし、胸痛を伴う一過性欠損像を SMI とした。

EX-TL 施行後の予後の評価は、入院中と退院後に行った各種心電図検査、運動負荷試験にて Cardiac event (梗塞後狭心症、心室性不整脈、慢性心不全、PTCA、CABG、再梗塞および心臓死の有無にて行った。

結果：EX-TL の結果、96 例は SMI を示さなかった 50 例 (A 群) と SMI を示した B 群に分類された。両群の冠動脈造影所見にて、多枝病変の有無、梗塞責任冠動脈に有意差はなく、臨床像 (高血圧、糖尿病、年齢、男女差、心内膜下梗塞の頻度、左室駆出分画) にも差はなかった。しかし、Cardiac event にて、B 群は A 群に比し、梗塞後狭心症、重症心室性不整脈の出現頻度が高く、心臓死を二例認めた。さらに B 群は A 群に比し、二年間の Cardiac event free 曲線にて有意に cardiac event の出現が高値を示した。

まとめ：EX-TL にて胸痛を示さぬ梗塞症例の約半数に SMI を認め、SMI を示す症例は示さぬ症例に比しその予後は不良であった。したがって、SMI 症例に対しては、積極的な治療とともに退院後の厳重な経過観察が必要であることが示された。

#### 46. 急性心筋梗塞症発症 1 か月後の安静時タリウム心筋 SPECT 像における梗塞部逆再分布現象の臨床的意義

|       |       |             |
|-------|-------|-------------|
| 馬本 郁男 | 宮尾 賢爾 | 首藤 達哉       |
| 高倉 正祐 | 岩波 充  | 辻 光         |
| 北村 誠  |       | (京二日赤・内)    |
| 杉原 洋樹 | 原田 佳明 | 志賀 浩治       |
| 勝目 紘  | 中川 雅夫 |             |
|       |       | (京都府立医大・二内) |
| 小寺 秀幸 | 村田 稔  | (京二日赤・放)    |

タリウム心筋シンチグラムの逆再分布現象は PTCA や CABG 後の運動負荷時に出現することがあるとされる。また、急性心筋梗塞の急性期の安静時タリウム心筋シンチグラムにおいても高頻度に認められるとの報告がある。しかし急性心筋梗塞発症 1 か月後における逆再分布現象を検討した報告はない。そこで、われわれは、急性心筋梗塞 (AMI) 発症 1 か月後の安静時 Tl 心筋 SPECT (R-Tl) における逆再分布現象の臨床的意義を検討した。

$^{99m}\text{Tc-PYP}/^{201}\text{Tl}$  Dual SPECT にて梗塞部位を同定し

た AMI 37 例を対象とし、AMI 発症 1 か月後に R-Tl を施行し、初期像および遅延像を得た。AMI 発症 1 か月後の SPECT 像より視覚的に固定灌流低下群 (Persistent Defect; PD) 19 例と逆再分布群 (Reversed Redistribution; r-RD) 18 例に分類し両群を比較検討した。

①急性期において r-RD 群は PD 群に比べ PTCR 成功または自然再疎通例、Dual SPECT で overlap を示す例が多く認められた。② r-RD 群は急性期に Tl 欠損の程度が軽度で、1 か月後に改善する例が多く、1 か月後の初期像の梗塞部 %Tl uptake は大であった。③ AMI 発症 1 か月の冠動脈造影の所見では梗塞部責任冠血管狭窄度は軽度で、壁運動は比較的良好であった。④視覚的に逆再分布を示す梗塞部の washout Rate は健常部より高値を示した。⑤視覚的に判定した梗塞逆再分布は梗塞部の Washout Rate が高値を示すために見られる現象であり、salvage された心筋に高頻度に見られる現象であると考えられた。

#### 47. PSS における心筋障害の特徴——Tl-201 心筋シンチグラフィによる検討——

|       |       |          |
|-------|-------|----------|
| 谷 明博  | 石田 良雄 | 両角 隆一    |
| 田内 潤  | 堀 正二  | 北畠 顕     |
| 鎌田 武信 |       | (阪大・一内)  |
| 木村 和文 |       | (同・パイオ研) |
| 小塚 隆弘 |       | (同・放)    |

目的：進行性全身性硬化症 (PSS) において、心筋線維化巣の存在と、心電図異常、心機能、皮膚病変および他臓器障害との関連について検討した。

対象：PSS 30 例で、年齢は平均 44 歳、男子 2 例、女子 28 例。

方法：dipyridamole 負荷タリウム心筋 SPECT を行い、15 分後の初期像、2 時間後の後期像で、fixed defect (FD) を示した場合、心筋線維化巣が存在するとした。心電図を計測し、心エコー図にて左室駆出率 (EF) の測定を行った。皮膚科医師の協力により皮膚病変の重症度を判定し、レイノー現象の有無についても注目した。他臓器障害として、消化器症状の有無、肺線維症の合併の有無、腎障害の有無について検討した。

結果：30 例中 12 例 (40%) に FD を認め、好発部位は前壁領域の心尖部寄りであった。心電図異常例では 73% と高率に FD が検出されたが、正常の 19 例にも、